JIC インフォメーション

第 160 号 2010 年 1 月 10 日
年 6 回 1･2･4･6･9･11 月の 10 日発行
1 部 500 円

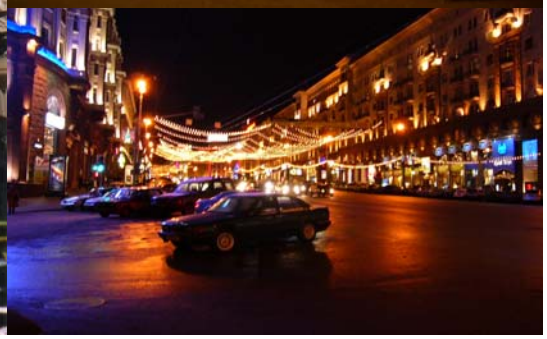
発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義　http://www.jic-web.co.jp
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪オフィス：〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 ﾌｪｱｽﾃｰｼﾞ大手前ﾋﾞﾙ 5F TEL：06-6944-2315　jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連　国際交流誌

あけましておめでとうございます！！

今年もJICをよろしくお願いいたします

2010



＜モスクワのクリスマスイルミネーション＞

ＪＩＣスタッフより新年のご挨拶・・・・・・・・・・2-14P
在日ロシア大使館・領事館より新年のご挨拶・・・・・15P
ロシア情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15P
ＪＩＣ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16P

JIC では、Ｊクラブ（JIC 友の会）会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

С Новым Годом!!

JICスタッフより新年のご挨拶 2010

皆さま、あけましておめでとうございます！2010 年も JIC をよろしくお願いいたします！

国と国の関係を動かすのは市民交流の力

2009 年の流行語大賞を獲得した「政権交代」。鳩山民主党内閣が発足し、日ロ関係においてもこれまでにない前向きの変化を期待しうる空気が生まれつつあります。言うまでもなく鳩山由紀夫総理は、1956 年の日ソ共同宣言で日ソ国交回復を成し遂げた鳩山一郎首相(当時)の孫であり、その時以来懸案となっている北方領土問題の解決と日ロ平和条約の締結を鳩山政権の重要外交課題として挙げています。第 2 次世界大戦の戦後処理の側面を持つこの問題が戦後 60 年間以上も解決されないまま放置されてきたのは、ひとえに戦後すぐに始まり 1989 年まで続いた米ソ冷戦の故であると考えられます。冷戦終結から 20 年、そろそろ戦後処理の原点に立ち返り、日ロ双方が謙虚に前向きに両国関係の将来を考えなおすべき時に来ています。

とはいえ、連立政権の基盤はまだ不確かで、鳩山民主党政権が独自の外交政策を強力に推し進めることができるまでには、いましばらく時間が必要なようです。日ロ関係を前向きに動かす力は言うまでもなく、経済関係の協力拡大とともに広範な市民レベルでの交流と対話の拡大です。JIC は、旅行、留学、語学教育、文化交流の面で、今年も全力でロシア・旧ソ連諸国との交流拡大に取り組んでいきたいと思います。

＊　＊　＊

堅苦しい挨拶はここまで。この年末年始は何故か旧来の友人に会う機会が多くありました。

まず、11 月 15 日から中国浙江省科学技術協会の杜黎民氏が来日し、久しぶりに居酒屋で一杯やりながら旧交を温めました。杜黎民氏とは、1990 年代半ばから 10 年間ほど科学技術協会が組織する訪日経済視察団と日本語留学生の受入れで一緒に仕事をした仲です。

11 月 17 日からは、モスクワの取引先旅行社のリュドミラ社長が娘さんとともに来日、昨年夏に引き続き四国遍路の旅をともにしました。第 12 番焼山寺から第 32 番禅師峯寺まで、10 日間かけて徳島市から室戸岬を廻り高知市まで約 270 キロを歩きました。遍路旅を、しかも歩き遍路で敢行しようというリュドミラ社長の熱意は、日本とロシアを心と心で繋ごうという共通の思いを奮い立たせてくれます。

12 月 29 日からはハバロフスクからマクシム・シューキン氏が休暇旅行で来日、1 月 6 日に大阪で会う約束をしています。シューキン氏とは約 25 年前、お互いにまだ青年時代に知り合いました。彼はコムソモール(共産青年同盟)のハバロフスク州第一書記。私はその頃 JIC 事務局長で、毎年青年交流の船をソ連極東に送り出していました。ハバロフスクで顔を合わせるたびにウォッカをたらふく飲み、大騒ぎしたことを懐かしく思い出します。ソ連崩壊後、彼は貿易会社を興し、今では不動産開発会社の社長になっています。時代は大きく変わりましたが、若者だったある時期に共通の体験を持ったという親愛感は消えることがありません。

1 月 15 日からはロシア日本協会(モスクワ)の事務局長、クルチーナ氏が来日します。翻訳家、著述家でもある彼は取材を兼ねて冬の金沢、能登半島を訪れる予定で、今から再会を楽しみにしています。

こうして並べてみると、外国人とはいえ、親しくなった友人たちは何故か皆同世代であることに気がつきます。同い年か、離れていても 3－4 歳違い。国は違っても、また社会背景は違っても、世界史の同じ時代を共に生きてきたという思いが、互いを近づけるのかもしれません。わずか数人でも心を通わせることができる親しい外国の友人がいるということは、幸せなことだと思います。JIC のスタッフをはじめ、JIC が関わりを持つすべての皆さんが、国内にも国外にも親しい友人を作り、気軽にやりとりできる関係をこれからも作り出して行けるよう祈ります。そのためにも、JIC は今年も精一杯、ロシアをはじめさまざまな国との市民交流を広げるために頑張ります。

ジェーアイシー旅行センター㈱代表取締役
JIC 国際親善交流センター・副会長　伏田　昌義

宝塚歌劇を観てきました

昨年、生まれて初めて宝塚歌劇を観てきました。夏に雪組が公演していた「ロシアンブルー －魔女への鉄槌－」という作品だったのですが、これがすごかったんです。まず、赤旗を振り回す劇団員達が登場し、それに合わせて演奏される音楽が、もうあからさまに「インターナショナル」のアレンジ、というところにゾクッとしました。何となく勝手に抱いていた花と乙女の世界のような「宝塚」のイメージをのっけからぶっ壊

してくれて、本当にありがとう。さらにその後も、エジョフだとか色々と実在の政治家が登場し、挙げ句の果てに「スターリン役」まで出てきちゃうのです。もちろん歌って踊ります（宝塚歌劇ですから）。もちろん若い女性が演じてます（宝塚歌劇ですから）。

という、恐いもの知らずなコメディーですが、観ていて感心したのはトータルデザインです。たとえば、「メイエルホリド劇団の稽古場」という設定で劇中に用いられるセットは、モスクワにある有名な建築家メーリニコフの私邸を模したもので、特徴的な六角形の窓、“Ｙ”の字の形の桟が忠実に模してあって、一目でそれとわかる出来映えです。劇場の土産物売場には、この演目のためのオリジナル包装紙で包まれたお菓子が並んでいました。そこに描かれていたのは「メトロポール・ホテル」と「グム百貨店」のシルエットで、やはり知る者には即座にそれとわかる再現度なのです。

どうやらこんな風に、妥協のないデザイン考証でもって、モスクワの実在の建築物を劇場内のあちこちに配することで、場にリアリティーを与えているようでした。たとえ脚本が完全なファンタジーであっても、何もかもが絵空事ではないのかな、と感じさせるような力が、ちゃんとしたデザインには確かにあるんです。

旅行業にはこれまで、このような努力が強くは求められていなかったように思えます。何といっても直接「本物」へと案内するわけですから、そもそも圧倒的にリアルなわけで、わざわざそれっぽさを追求すること自体がナンセンスですね。しかし、もはやそうも言っていられないようです。テレビとネットがあれば、そこそこリアルなモノに触れられるから、旅行になんて行かなくていい、と真面目に主張する人がだんだん増えているからです。もっともなことです。旅行会社に勤める私だって、たまにそう思うことがあるくらいですから。

宝塚歌劇は阪急電鉄という大阪の鉄道会社の直営です。この会社は、明治時代、一面の田園風景の中に線路を敷き、ターミナル駅にはデパートを、終着駅には娯楽施設を作り、沿線には宅地を開発しました。そうやって、もともといなかったはずの乗客を自ら作り出し、それを運ぶという、今では当たり前の鉄道経営モデルを初めて構築したのです。宝塚歌劇は、他でもない、その乗客獲得のための娯楽の一つとして生まれたものでした。

これから旅行会社が人の流れを作ろうとするとき、「終着駅に世界遺産がありますよ」などと宣伝しても、それは既にある温泉地に鉄道を敷いて客を待つようなもので、もうそれだけでは見向きもされないのでしょう。これを「旅行離れ」と評する向きもあるようですが、私はむしろ、これまでが異常なくらい流行っていただけで、本来の旅行の需要なんて実はそんなものじゃないかと思っています。直接会わないと会話できなかった人々が、技術の進歩により電話で用を足せるようになったのも、直接訪ねないと見られなかった風景が、テレビやネット経由で手に入る「プチリアル」でかなり代用できるようになったのも、根本的には似たようなものだろう、と。つまり、しょうがなく旅行していた人々がどんどんいなくなっているのです。だから私達旅行会社も、巨視的には、市場が求める本来の規模へと縮小する定めなのだけれど、もし自分で宅地を開発し、終点に「宝塚」を作れるのなら、人の流れのなかったところに自ら流れを作ることもできるんです。きっと。

昨年私は結婚し、新婚旅行で宮崎、鹿児島を周ってきました。ご存じの通り、新婚旅行のメッカだったところです。あからさまなブームも去って久しく、今このデスティネーションの見せる姿は、これからの旅行産業の将来を占う上で、色々と示唆に富んでいるように思います。

廃墟群の中で小綺麗に改装したホテルが一軒、野生馬を百頭余り従えながら情緒たっぷりに営業している宮崎の都井岬。一般家庭が地熱を調理に用いてしまう「熱い」集落、鹿児島の鰻（うなぎ）温泉。「なんでこんな面白いところに誰もいないの」と妻に言わしめた時は、内心、我が意を得たり、

と思いましたが、要するにそれほど客が少ないのです。大丈夫なんでしょうか。かと言って、今ここにたくさんの観光客が押し寄せていたなら、果たしてこんな独り占めぜいたく気分を味わえただろうかと考えると、うーん、やっぱり雰囲気ぶち壊しかも、とも思えます。持続のためにはどんなバランスが適度なのかよくわかりません。

とにかく、もはや旅行は誰もが競って行くものではなく、本気度の高い人だけが選ぶ娯楽になってきたようです。これから、（奇特にも）どこかへ旅行をしようと考える人は、行き先を選ぶときに、そこが世間で流行している行き先かどうか、をますます顧みなくなるでしょう。結構なことです。「プチリアル」で満足できない人々の流れが、旅行者の主流となるのであれば、流行り廃れに関係なく、強くて途切れない、成熟した流れになるはずです。

阪急が創造した人の流れは、3 世代、100 年立派にもちました。私もいつか、そのくらいの仕事ができればいいな（大風呂敷）。

大阪　岡本　健裕（おかもと　たけひろ）

今年もよろしくお願いいたします！

あけましておめでとうございます。

JIC に入社し、年に1回はロシアを訪れることができて、益々ロシアが身近な国になりました。一昨年は、3 年ぶりの

モスクワだったので、見るものすべてが懐かしく感じられ、いろいろな思い出の場所をたずねました。今回は、5年前に長期滞在していた続きのような感じがしました。私が通っていた大学にも行ってきました。少しの変化は感じましたが、卒業してから、学部を訪れるたびに温かく迎えてくれます。「大学院には入らないの？もっとロシアで勉強続けないの？いつ戻ってきてもいいのよ。」そんな言葉をかけられ、また学生時代の日々の記憶がよみがえってきました。

今回も私がロシアを訪れたのは秋でしたが、ロシアの秋は黄金の秋と言われ、本当に美しいです。日本の秋はもみじの赤のイメージですが、ロシアは黄色のイメージです。ただ、その時期に行くのは夏の混み合う観光シーズンに行くよりもタイミングが難しいような気がします。紅葉が美しいと感じる時期は、短いと言われる北国の夏よりも短いのです。またロシアの秋は肌寒い雨が降る日が多く、やっと秋が来たと思ったら、いつの間にか雪が降りだして、木々に黄金の葉はもう残っておらず、季節を感じる間もなく過ぎ去ってしまうような気がします。私の今回の休暇でのロシア滞在では、ほんの少し、黄金の秋を楽しむことができ、リフレッシュして 1 年を締めくくることができました。皆さんも秋の航空券の安い時期にロシアを訪れてみてはいかがですか？

東京　中林 英子(なかばやし えいこ)

NEW YEAR に乾杯（ ^^)Y☆Y(^^ ）

明けましておめでとうございます！年末年始は実家に帰り、バッチリ正月太りした五十嵐です◎ 本年もどうぞよろしくお願い致します。

皆様、2009 年は何かにチャレンジされましたか？私は…自慢できることではないのですが、2x 歳にして普通自動車免許取得にチャレンジし、無事に取得致しました m(_ _)m。まぁ、AT 限定なんですけどね…。車の免許は、やはり学生時代に取っておくべきだったと後悔しました。働きながらの自動車学校通いは本当に大変です。平日は朝から晩まで仕事、土日祝日は自動車学校でほぼ丸潰れ。わりとスムーズに進みましたが、それでも 4 ヶ月かかりました。しかも周りは平成生まれの若い子がほとんどです。自分の生年月日が見えないように、何度涙目で仮免許証を裏返したことか…。笑。とにかく頑張りました。試験に合格した時は本当に嬉しかったです！！！

それにしても…免許を取ったのはいいのですが、車を運転する機会なんてあるのかな～！？まずは車を買わなきゃ…。車が手に入るまでまだまだ時間がかかりそうですし、それまでに運転のノウハウを忘れてしまいそうです…。

また、昨年は結婚したこともあり、花嫁修業がてら料理教室に 2 ヶ月間通いました。親元を離れて随分経ちますのである程度のことは出来るのですが、全て適当料理になってしまうためビギナーズコースで基礎をしっかり学びました。今ではお魚も下ろせます^^v。ちなみに昨年の JIC はナゼか結婚ラッシュで…、同期の鶴田さんもご結婚されました(^3^)。おめでとうございます！

さて、今年はどんな年になるのでしょうか。今年も何かにチャレンジしたいと思います。第一候補は運動不足解消のためのジム通いかな…。

2010 年が皆様にとって実りある一年になりますように。

大阪　五十嵐 真夕(いがらし まゆ)

皆さま、あけましておめでとうございます！

昨年 11 月に私はアブハジア共和国に行ってきました。アブハジアは、ソ連崩壊前グルジア・ソビエト社会主義共和国の中の自治共和国でした。アブハジアは「天国の園」と言われるほど、きれいな自然をもつ地方です。スターリンをはじめ、ソ連共産党のエリート、有名な作家、芸術活動家、学者などはアブハジアの海辺と山地に別荘を持っていました。1991 年にグルジアが独立した際、アブハジアもグルジアからの独立を得ようとしましたが、その頃のアブハジアの住人はほとんどがグルジア人でした。翌年、独立をめぐって戦争が始まりました。1993 年に停戦協定が締結されましたが、事実上アブハジアの領土はこれまでグルジアに管理されておらず、両者間の緊張がずっと続いていました。そして 2008 年 8 月、ロシアがアブハジアの独立を承認しました。最近、アブハジアにいく旅行客の数はどんどん増えていると聞いていましたので、自分でも行ってみようと決心しました。

アブハジアの首都スフムの空港は、今のところ使用されていないため、モスクワからの経路はソチ経由になります。2 時間ぐらいでソチに到着、空港から国境までは 20 分ぐらいかかります。アブハジアの国境審査は簡単です。ただしロシア、CIS 諸国の国民以外はビザが必要です。アブハジアは承認国ではないので、世界の国々に大使館はありませんが、アブハジア外務省へ E メールで申請して、入国許可書をプリ

ントし、その許可書で国境を越え、スフムで正式的なビザを受け取る事ができます。

スフムでは、アブハジア料理が食べられるレストランへ行きました。すごく安くて美味しかったです。アブハジアでの果物の値段は、隣のソチの約 2 分の 1 です。とくに美味しいのはアブハジアの山々の蜂蜜です。私は蜂蜜が好きで各地の蜂蜜を食べてきましたが、アブハジアで食べたような美味しい蜂蜜は初めてでした。

スフム以外に、ノーヴイ・アフォンとガグラに行きました。ノーヴイ・アフォンとは、150 年ほど前、ギリシャのアトス山（ロシア語：アフォン）の修道士がアブハジアに行き、「新アトス」（ロシア語：ノーヴイ・アフォン）という修道院を創設したことに由来します。ノーヴイ・アフォンの隣の山からアブハジアの海辺と黒海の美しい景色が見えます。また、私はガグラで海に入りました。アブハジア人は寒いからと 11 月に海に入りませんが、私はモスクワ出身なので大丈夫です。

戦争が歴史となり、アブハジアが以前のように、旅行者に人気の保養地として発展できるように期待しています。

モスクワ　トカチェンコ・ドミトリー

ロシア留学から 20 年…同窓会でもしませんか！？

私が JIC を知り、留学生として JIC と関わりはじめてから今年でちょうど 20 年になる。20 年といえば、その年生まれた子供が成人式を迎える年。自分では全くそんなつもりはなかったのだが、いつの間にか自分の人生の半分を JIC とかかわることになってしまったわけで、一緒に働いていたスタッフがいろいろな理由により会社を去る毎に「次は私の番なのかも」と思いながら現在まで JIC に在籍していることに、感慨深い気持ちと気恥ずかしい気持ちがまじりあってどうも複雑な思いである。

1989 年に JIC から極東大学に留学した私を含めた 11 人は、ルーシ号で横浜から出港し 2 泊 3 日でナホトカに到着した。その後大学関係者の車で、台風一過の水も電気も止まったウラジオストク大学寮にたどりつき、各自真っ暗な寮の部屋で心細い思いでこれからのロシアでの生活を考えたものである。その頃のロシアといえば、ペレストロイカを経て経済の移行期であり、現在 BRICs と呼ばれるモスクワやサンクトペテルブルグの繁栄ぶりからは全く想像ができないが、トイレットペーパーがないとか、商店のショーウインドーが空で商店では食べ物を購入できないなどの報道が日本でなされていた頃であった。そのため私たちは船での移動をいいことに大量のインスタント食品やトイレットペーパーを各自持ってきたのだった。物不足の中で私たち留学生はお互いのモノや情報の交換をしながら団結して生活していた。ウラジオストクでの生活は言葉ができずコネもない私たちには確かに不自由だったが、大学は日本からの留学生に対して、できる限りの良い待遇で接してくれた（と今は思う…不足な部分ももちろんあったと思うが）。少額ではあるが奨学金さえもらえたのである。不自由な生活の中で、ロシア人の懐の深さや人懐っこさに触れることができ、また JIC のフォローもあって私たちはよい留学生活を送ることができたと言ってよい。

＜留学同期の 2 人と＞

ロシアのよい部分を見ることができたおかげで、今でもロシアとのよい関係を築くべく各方面で活躍している同期の友人たちは多い。そして JIC の仕事を通して私のような者もその末席に連なっていることは嬉しく思う。一緒に留学生活を送った友人たちのことは今でも懐かしく思うし、もうそろそろあの頃のことやその後の 20 年のお互いの変遷を語り合ってもいい時期なのかもしれない。2010 年は同期のみなさん、ぜひ同窓会をしたいですね！

2010 年が良い年でありますように。

大阪　小原　浩子（こはら　ひろこ）

ロシアへ行けないパスポート

南の島の空港に到着した。パスポートコントロールの兄ちゃんはなぜか目が正気じゃなく、へらへらした雰囲気で入国スタンプを押していた。その国は入出国カードが必要で、出国カードを失くさないようにホッチキスでぱちんとパスポートに留めてくれる。「やっと入国できた」入国手続きはどの国でも一番緊張する嫌な時間で、無事に終わると本当にほっとする。そしてどんなハンコかちょっと見て日付を確認。さらに出国カードがくっついている場合にはホッチキスを取ってパスポートからカードを外す。パスポートが傷んでぼろぼろになっていくのが嫌なのだ。機械でデータが読み取られにくくなったりして。それと、ハンコやシールビザをぺたぺたしてほしくない。理由は「国境でのチェックをとにかくささっと済ませたい」だ。パスポートのページをめくられている時の緊張が苦しい。「あっ！」ホッチキスを外したページの裏を見て声を上げた。ロシアのマルチプルビザに穴が 2 つ開いてしまっている。すぐにそのビザを使う予定だったので「入国大丈夫かなぁ。わざわざこのページにホッチキスしなくてもいいのに」と、

＜撮影地：愛知＞

国境での不安材料を増やしたへらへら兄ちゃんを恨んだ。

アナーキービザで無事にロシア入出国はできたが、その渡航を最後にしてビザの有効期限が切れた。今は新しいビザが貼られていないので、明日急にロシアへは行けない。それは、「いつでも旅立てる」という身軽さを失くした歳になったということの現れか。これを「落ち着き」というのだろうか。

東京　金井　義彦（かない　よしひこ）

「地道に」

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

みなさん、アメリカの TV ドラマの「Heroes」をご存知ですか？「ヤッターーーっ」で有名なあのドラマです。私は先日、シリーズ 3 を一気に続けて観てしまいました。このドラマは、超能力を持った登場人物が世界を救う、というストーリーなのですが、空を飛んだり、人の心の中を読んだり、時間を止めたり、変身できたり、などなど、とにかく凄い人たちがたくさん出てきます。この世の中、本当に超能力者っているのかなー・・・とか、もしかして私も実は秘めたる超能力があったりして・・・、もしかしてあの人・・・などと大人気もなく子供のように考えてしまって、すっかりドラマにはまっています。はまってしまうと、そればかりになってしまうのが私の短所でもあり長所でもあるのですが、このドラマは本当に観ていて楽しいんです。なんかいいんですよね、あの超人的な感じが。とにかく登場人物の皆さんが人知を超えたスケールなので、観ていると、小さなことで考え過ぎるのはやめようって思えてきます(笑)。いい意味で楽観的になれるような。ああいうドラマが支持されるのは、超人的なものへの憧れからなのでしょうか？だとしたら、私は完全にその一人です。飛んで帰りたいー、とよく思っています。超人的な力が出てくるまでには、まだしばらく時間がかかりそうなので、2010 年も地道にこつこつがんばろうと思います。

東京　柳沢　昭子（やなぎさわ　あきこ）

西穂高岳 ―ピラミッドピーク―

2009 年 3 月　西穂独標を越え、やっとの思いでピラミッドピークまで行く事ができた。辺りは白銀一色の世界であり、空は吸い込まれるほどに青く、突風により頂上には雪煙が舞っていた。

前日に入山し、ヒザまで潜る雪の中、2 時間程で小屋に到着した。自宅を出発した時点では雨、山は雪である。小屋前には、私達と同じように次の日にアタックをかけるクライマー達のテントが所狭しと張ってある。夜はすぐに訪れ、あたりは闇になった。次第に風が吹き始め、テントに雪が当たる音がした。次の日の天気が気になるところである。

午前 6 時。目が覚めた。テントから顔を外に出すと辺りは白いガスに覆われ、ピリッと感じるほど空気が冷たく温度計を見ると優にマイナス 15 度を下回っていた。辺りが明るくなった頃には食事を済ませ、ギアのチェックをした。

午前 8 時。ガスに覆われていた空は次第に晴れ渡り眩しいほどの青空に変わった。アタックザックに 30m ザイルを入れ、ハーネス・ヘルメットを装着、ピッケルを握り出発した。

ザクッ、ザクッと、子気味良い音と共に凍った雪にアイゼンが刺さる。太陽が昇るに連れて雪の表面は解け、状態は次第に変化するだろう。雪面が歩き易いのはあと 2～3 時間。それ以降になると、きっと足場が緩むと予測をつけた。西穂独標に到着し、そこからはパートナーとアンザイレン(ザイルで結び合う事)で稜線を進んだ。前日の降雪により行く先にはトレースが無く足首まで積もった雪の上を歩いた。太陽の光によって解けてゆく雪、ピッケルを刺しても刺さらず崩れてしまうゆるい雪面。これ以上先に進む事は危険だと判断し、西穂高岳頂上はあきらめた。それでも、なぜか心の中はとても清々しく、それ以上に、次の山行につながる良い経験をしたと実感した。自然相手、自分の命あっての登山である。身をもっての経験が次のステップに 100％繋がるのだ。

2010 年 1 月、きっと今頃はどこかの山で、この経験を活かし、去年よりレベルアップした山行をしている事だろう。今年も安全に登る事を念頭に置きたい。

東京　白井　真理奈（しらい　まりーな）

夏のウラジオストク

あけましておめでとうございます！

大人になってからは特に、毎年 1 年が経つのがとても早く感じます。ついこの間出発したばかりだと思っていた留学生から、10 ヶ月間の留学を終え「無事帰ってきました」との報告を受けると、私が日々の業務に追われている間にもう 10 ヶ月も経ってしまっていたのだなぁ…と怖くなることがしばしばあります。

さて、昨年感慨深かった出来事といえば、7 月にウラジオストクを訪問して、現地連絡員の井上さんはじめ、留学生の皆さんとお会いできたことです。皆さんとは、海岸通りの魚市場で売っているエビを大量に（3kg！）買い、ビールを片

手に総勢８名で懇親会をしました。このエビは、現地在住歴 10 年以上、井上さん一番のオススメで、一旦ゆでたエビを冷凍し、魚市場では、解凍されたものが山盛りにして売ってあります。聞いただけで食べるとお腹が痛くなりそうですが、これが意外に大丈夫で、日本人の私たちでも全く問題ありませんでした。また、既にゆでてあるので、その場で頭を取り、殻をむいてすぐにいただくことができ、これが何とも言えず絶品なのです。周りを見回せば、仲間でテーブルを囲み、ビールを片手にエビやシャシリクをほおばっている人がたくさん。これがウラジオっ子の短い夏の楽しみ方のひとつのようでした。皆さんも、ウラジオストクを夏期に訪問される際、屋外でビールを飲んだらおいしそうだな～と思えるような陽気に恵まれたら、ぜひ、アムール湾に面した海岸通りへ行ってみてくださいね。

ウラジオストクの留学生の皆さんは、それぞれに留学生活を楽しんでいらっしゃる様子で、「週末ごとに郊外の町を訪問しています」「もうすぐ帰国だけど船で帰ろうと思っています」「毎日散歩ばかりしていて、行ったところがないほど街中を歩き回っています」など、いろいろうれしい報告してくれ、とても頼もしく感じました。今回のウラジオストク滞在でお世話になった皆さんどうもありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

最後になりましたが、2010 年も本誌読者の皆さまにとって良い年でありますように。本年もよろしくお願いします。

東京　富樫　万里枝（とがし　まりえ）

旅行に行きたくない時

新年あけましておめでとうございます！

旅行会社で働いている以上、当然国内の観光地やリゾートの情報を毎日のように目にするので、ついに「自分でも行ってみよう」と思うことがよくあります。という訳で昨年の秋に誘惑に勝てずに初めて沖縄に行きました。見たことのない離島の鮮やかな海や、沖縄ののんびりした独特な雰囲気と、くっきりした存在感に溢れた独自文化が印象的でした。時には、僕が日本に初めて来て慣れるまで度々体験していた驚きと毎日の発見、久しぶりのあの気分が蘇ってきたかのような感覚もあり、平凡ですが、ああいう感じって旅の魅力だなぁ～と改めて感じました。その時にお世話になった現地の人によると、僕らみたいな観光客が地元の沖縄を探検している姿を見送るのが仕事の最大の楽しみなんですって。そしてこの話は１ヵ月後、2 週間の初日本滞在でロシアから友人が遊びに来てくれた時に再び記憶に浮かんできました。

あの時の最高に楽しい思い出の1つは、その 2 人が抱いた恍惚とした感想や、刺激的なカルチャーショックをはじめ、羨ましくなるほどの彼らの日本の楽しみっぷりを目撃し感じたことです。帰国後にもらった「別世界に行ってきて超面白かった！」という便りを読んだら、なんとなく沖縄のあの気分が沸いてきました。

でも余裕があってもその時に限って旅に行きたくない時期もありましょう。それは僕にとっては、迎えても迎えても飽きの来ない定番、お楽しみ満載のお正月のこと。久しぶりの再会、今年も運動不足で福男になれそうもないが、毎年必ず行く西宮神社での参拝、御節（日本版にロシア版）、灘五郷めぐり（濁り酒、美味いっす！）等々。挙句、この年明けに我が家はロシア映画祭で家族全員が忙しくなりそう（沢山の DVD を持ってきてくれた例の友達に感謝感激）。それでは、今年も皆様、良い年になりますように！

大阪　ズビャーギン・フョードル

いい汗かいていますか？

皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今まで忙しさにかまけて、何の運動もしていなかった私ですが、昨年の 4 月から友人に誘われて、近くのスポーツクラブの会員になりました。まずは月 4 回ホットヨガのクラスに参加するコースを選びました。普通のヨガはこれまで何度かやったことがありましたが、初めて体験するホットヨガは室温 38 度、湿度 65％という、かなり苛酷な環境の中で行われるものでした。じっとしていても汗が滲み出し、体を動かすとポタポタと滴り落ちます。普通のヨガではじっと横になっているとつい、うとうとすることもありましたが、ここではとんでもない！寝ているだけでも苦行です。こんなにハードな環境の中にいるのだから、さぞかしそぎ落とされるものも大きいだろうと期待していたのですが、どうやら効果はすぐには表れないようで、半年続けても（といっても週1回のペースですが）特に変化はありませんでした。

そこですぐに成果を求めたがる私達は、11 月からマシン

を使ったトレーニング＋ピラティスやズンバ等、好きなスタジオプログラムに参加できるコースに変更しました。今までテレビでしか見たことがなかった、ランニングマシーンや筋トレ用の様々なマシン。やってみると確かにこれは効果がありそう！ホットヨガとはまた違った自然な？汗をかきました。残念なのは月 4 回しか参加できないこと。せめて週 2－3 回通えればまた違うんだろうなぁ。でもやらないよりはマシかな？と自問自答しつつ、筋肉痛に悩まされながらもせっせと体を動かします。どうか余分なものがそぎ落とされますように…と願いながら。今話題の「事業仕分け」ではありませんが、無駄はなるべく省きたいですものね！

最後になりましたが、2010 年が皆様にとりまして幸多き年になりますよう、お祈りいたします。

東京　佐藤　早苗（さとう　さなえ）

通勤時間

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

昨年の個人的なﾋｯﾄとしてﾒﾄﾛの通勤時間が挙げられます。一昨年からﾒﾄﾛで通うようになり、その時間の過ごし方をずっと考えていました。読書にあてるのが一番いいと思ったのですが、ロシア語の本を読むには、すぐに単語が調べられず不便だし、ロシアのﾒﾄﾛの中で日本語の本を読むのは「いかにも外国人」で（見た目だけで十分外国人なのですが）目立って危ないのではなどと思ってしまい、有効活用できないでいたのです。そんなある日、必要な場面でとても簡単な英語を話せず大ショック！一念発起し、英語の勉強を再開しました。昔覚えた単語を思い出すためにﾒﾄﾛで小さな英英辞典を読み、帰宅後に分からなかった単語を英和辞典でチェック。たったそれだけを続け、2 ヶ月後の一時帰国時に英検準1級を受験。一次のみですが合格できたのです！これは私にとって快挙でした。というのも、学生時代にこの準1級をそれこそ5、6回は受けたでしょうか。毎回一次試験で不合格。いつかは準1級を取りたいと強く思ったままロシアに来てしまい、叶わぬ夢となっていたからです。

これで要領を得て、今度は遠ざかっていたロシア語の文学作品をﾒﾄﾛで読み始め、現在に至っています。また、今回の英語、ロシア語の勉強再開でついた語学熱が、十数年前に選択科目として取ったフランス語にまで飛び火し、最近「星の王子様」を原語で読み始めました。ずっと以前から原語で文学を読んで楽しみたいという思いがあり、ロシア語は勿論、フランス語、そして英語も本だけは購入して棚に並んでいるのですが、ロシア語以外は手付かずのままだったのです。私のﾒﾄﾛ通勤時間は往復わずか 40 分。その 40 分の使い方を変えただけで生活全体に影響が及んでしまうんですね。今年もこの通勤時間はもとより「時」を大切に、丁寧に過ごしていきたいと思います。

皆様の 2010 年という「時」が充実したものになりますよう心よりお祈り致します！

サンクトペテルブルグ　奥田　美千代（おくだ　みちよ）

ワンコに学ぶ日々・・・

私は、我が家のワンコとこれまで 10 年近くずっと会話しているつもりだったのですが、つい最近になって「あ。彼女はことばを一言も発してなかったんだ！」ということに気付きました。それなのにこんなに私と彼女は意思疎通がうまくいっている。これは何だ？と考え始めたのでした。彼女は言葉をよく理解しています。これはペットを飼っている方ならどなたでも共感していただけると思います。驚くべきことに彼女は、日本語はもちろん他の言葉も理解しています！我が家にやってきてからずっと、私だけは日本語以外の言葉で話すようにしているせいか、あるいは彼女自身が私の言葉を理解する必要に迫られるせいか（お散歩の呼びかけ、おトイレ、食事の合図など）、きちんと私の言葉を理解しています。その証拠に例えばロシア語で「お散歩行く？」と聞くと、尻尾を振りながらはじけるように玄関に飛び出るといった感じです。そう、彼女はとってもお利口さん♪さて、こんなにお利口なワンコとはいえ、さすがに言葉は話せません。そこで、なぜ私たちの意思疎通に問題がないのかということなのですが・・・もちろん彼女が吠えたり、とび跳ねたり、耳を動かしたり、尻尾を振ったりすることで一時の感情はこちらに伝わりますが、それ以上に言葉の代わりとなっているのは・・・そう、彼女の目の表情なのでした。そして彼女の音の無い言葉をなんとか理解したいと思う私の気持ちも手伝って、私たちは会話ができるのです。「目は口ほどにものをいう」と言われますがその通りだと思います。彼女の目の動きとその輝き、くもり加減で、喜んでいる、散歩に行くのを待っている、食欲がない、眠たい、軽蔑している、嫌がっている、おびえている、怒っている等々だいたいの事は察することができます。意思疎通を図るのに言葉はもちろん大事だけれど、それよりもっと大事なことは相手を理解しようとする気持ちで、その気持ちがどれだけ大きな役割を果たすかということを彼女を通じて

改めて実感しています。最近ではお散歩中の他のワンコや、近所に住む野良猫ちゃん達とも会話？ができるようになりました（頭がおかしくなったわけではありません！）。まず目を見つめて心で話しかけるとちゃんとこたえてくれます。私への返事として、時にこちらにスキップで寄ってきてくれたり、時にニャーとないたり、時に尻尾をぐるんと一回転、優雅に仰いだり、時にふてくされて一瞥したり･･･色々です。こうして心の中で話しかけるようになってからは、私の顔をみてサーッと逃げてしまうことはほとんどなくなりました。動物は私達人間と違って言葉を自分で発することが出来ないぶん、空気を読むことに優れているのですね！我が家のワンコを通じ、私は日々たくさんのことを学ばせてもらっています。

東京　藤枝　康子（ふじえだ　やすこ）

あれから 10 年！？

みなさま新年あけましておめでとうございます。昨年1年間もあっという間に過ぎた感じでした。年々1年が過ぎるのが早い気がしてなりません（笑）。2000 年だ 21 世紀だと騒いでからもう 10 年もたつんですね（＞＜）、早いっ！

僕が最初ロシアに行ったのは今からもう 10 年程前の話になります。当時はアエロフロートが関空からモスクワまでの直行便を運航しておりA310の西側機材だったのを覚えています。「ロシア初の西側機」といったことで少し話題になっていました。初めて乗ったアエロフロートは･･･意外と普通でした。むしろ自分にとっては人間的なサービスに余計なことがなく安心して行けたのを覚えています。モスクワに到着すると、滑走路は雪景色で、日本ではほとんど見ることができない旧ソ連機がたくさん駐機していました。とても感動でした。これぞロシアに来た！･･･と飛行機が好きな方ならこの感動は解って頂けるかと思います（笑）。愛想のない入国官、適当な税関、空港職員なのに超ミニスカートなどロシアならではの“サービス”に圧倒されていました。当時のモスクワは不景気のどん底状態だったのですが、街では何もわからない僕に親切を超える道案内や品物の説明をしてもらい、ロシアの温かさにも触れることができました。

それから JIC に入社し、ウラジオストクへ行く機会に恵まれました。結果的にこのときが初めての旧ソ連機です。ゴォーと独特の音と煙を出す飛行機は少し怖かったですが、機内では安心してくつろげました。やっぱりロシアに行くにはこの機材でないと、なんて旅行社員らしからぬことも思っていました。シートベルトサインがついてもまだテキパキと動く乗務員見てロシアも変わったなぁと感じました。空港内は相変わらず、愛想のない入国官、適当な税関、空港職員なのに超ミニスカート（笑）。飛行機の写真を撮ろうとしたらミニスカ職員に注意されました。あっ！ちゃんと仕事してるんですね^^v。その頃は景気がよくなりつつある感じが街からも伝わってきました。モスクワとウラジオストクでは違いますが、人の顔が明るくなっていて、レストランでも笑顔のサービスが増えていたと感じました。

今ではロシアはだいぶ豊かになり、あらゆる都市に日本からも観光やビジネスに出かける人が増えています。僕が JIC に入った頃は「こんな都市に？何しに？」なんて思うこともあったのですが、本当に今では情報もたくさんあり、よほどのことがない限り「こんな都市？」と思う事はなくなりました。

ただ残念なことは、最初に僕が感動した旧ソ連機が年々減ってきていることです。もちろん古い機材もたくさんあって寿命といえばそれまでなのですが、寂しい限りです。「こんな都市？」と思っていた僻地にも西側機材が当たり前のように飛んでいて、旧ソ連機に乗ること自体難しくなってきています。機会があれば、「旧ソ連機だけで巡る今のロシア」といったツアー企画などしてみたいと思いますが･･･。旧ソ連機が好きな人も、旧ソ連機で少し嫌な思い出がある人も、ロシアの空から消える前にもう一度あの“音”に古き良きソ連を感じてみませんか？ですが機材変更した時は･･･すみません。ロシアには良くあることなんです（笑）。でも、ツアーだとそれでは済まないので、やっぱりダメですかね･･･。

という訳で今年も皆様のご旅行のお役に立てるよう頑張りたいと思います。皆様にとって良い年でありますように！

大阪　後藤　正明（ごとう　まさあき）

目指すは家族でシベリア鉄道

あけましておめでとうございます。

ここ数年、子供の話題ばかりで恐縮です。長男・広宣（ひろのぶ）は早くも 2 歳 9 か月、次男・正明（まさあき）も 1 歳 2 か月になりました。夫婦共働きなので、平日の日中は、2 人とも 0 歳児から、別々の保育園で過ごしています。

平日は、帰宅する頃には 2 人ともだいたい寝静まったあとなので、保育園からの連絡ノートを読みつつ、安らかな寝顔を眺めながら、その日の様子を思い浮かべる毎日です。

土日はできるだけ一緒に過ごすようにしていますが、一週毎に見る子供達の成長ぶりには目を見張るばかりです。語彙も、理解できる事柄もどんどん増えていき、上の子は箸の持ち方までずいぶん上手になりました。いたずらもどんどんエスカレートしていますが、純粋な物事への興味と、リアクションへの関心が子供の成長につながるのだと、自分に言い聞かせ、できるだけ大目に見るようにしています。

また、時間を見つけては、子供達とお出かけするようにしています。昨秋は北海道にも行ってきました。見慣れぬ大きな飛行機や列車に二人とも大興奮！旭山動物園や、登別温泉(「カルピスみたいなおんせん」とか言っていました)も楽しかったようです。

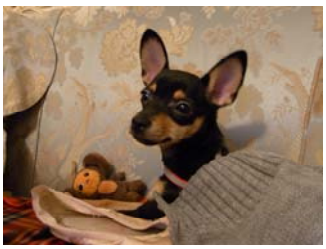
上の広宣には、NHK が制作したシベリア鉄道の DVD を時々見せています。「とーちゃん、きのうロシア行ったの？」(彼にとっては、過去のことは全部「きのう」になるようです)、「とうちゃん、ひろくんも、せーべーてつどー、のりたーい」(注:シベリア鉄道のこと)などど言うようになりました。家族旅行でロシア、も、そう遠い未来のことではなくなりそうです。 今年もどうぞよろしくお願いします。

東京　神保　泰興(じんぼ　やすおき)

ロシアントイテリア

明けましておめでとうございます！今年は 4 年ぶりにロシアで新年を迎えました。このところ毎年お正月は日本でしたので、久しぶりに大統領の演説を見て、新年のクレムリン詣でとなりました。

ところで、みなさんロシアントイテリアという犬をご存知でしょうか?ロシア生まれの小型犬です。見た目もサイズもチワワとよく似ていて、ロシアではどちらも同じくらい人気があります。毛はロングとスムースがあり、手足が長いバンビのような姿が特徴です。現在日本にはほとんど入っていないらしく、ロングが数頭飼育されているだけのようです。ロシアの冬は厳しいのですが、雪の中元気にチョコチョコお散歩をする姿は本当にかわいらしいです。



モスクワの友達が 2 人ほど飼っていて、一目で気に入ってずっと欲しかったのですが、外国の一人暮らしでペットを飼うのはとても大変だし、寮生活や日本に長期で帰国することもありあきらめていました。今年の夏、モスクワ在住の友人が日本に2週間ほど帰国した際、チワワを預かってほしいといわれ、小学校以来犬を飼っていなかった私はちょっとドキドキしながら預かったのですが、すでに成犬だったため特に世話もいらず、とても楽しく 2 週間を過ごしました。この時にずっとくすぶっていた犬願望に火がつきました。

よくよく考えて、日本に連れて帰るときの手続きなども事前に調べ、2 度の下見の後、10 月からやっとわんちゃんがうちの家族になりました！毛はスムース、色はブラック＆タンのボロネジ生まれの女の子です。食欲が旺盛で、うちに来てたった 2 ヶ月で身体は倍近くになり、顔つきも変わってきました。昼間家にいないのでしつけはなかなか大変ですが、疲れて帰ってきてわんちゃんの顔を見ると何ともいえず癒されます。朝の早起きは苦手なのですが、犬は朝ぴったり時間になると起きてきます。土日はもっと寝ていたいと思いながら、ついついかわいくて相手をしてしまいます。2010 年はちょっと寝不足気味の毎日になりそうです。

モスクワ　山川　詩保子(やまかわ　しほこ)

“Стиляги”

みなさん、明けましておめでとうございます。インバウンド部の竹村です。一年過ぎるのが本当に早く感じます。また新たな年を迎えてしまいました。

さて、ロシアネタですと、9 月にサハリンへ 1 週間ほど行ってきました。ジャケ買いで“Стиляги”という映画を買ってきたのですが、久しぶりに笑ってしまった楽しい映画でした。ロシア映画の好きな方で、観る前に粗筋を言われるのが嫌な方はこれ以上読まないほうがよいかもしれません。

舞台は1955年のロシアで、人々のファションは個性も無く、みんな暗い感じの服を着ていました。一部の若者は、アメリカの流行に乗るため、カラフルな服を着てディスコに行くという華やかな日々を送っていました。ある時、一人の全身灰色の地味な真面目な男子学生は、道端で垢抜けた格好をした女の子に惚れ、自分もその仲間入りをしたく、早速、服屋で派手なスーツを買って、ネクタイは密売人から購入し、髪形はリーゼントにし、一気にアメリカナイズドされた感じに変わりました。その格好で家から外に出ると、近所の子供たちにボールを投げつけられたり、笑われたり、振り返って見られたり。この当時、お洒落になると大変目立ち、世間からは白い目で見られるのでした。それでもって今度はさらに、サックスを(こちらもまた怪しい人から手に入れ)クラブの舞台で演奏し、気に入った娘を射止めることが出来ました。

その後、彼女の妊娠が発覚し、結婚して産むことになりました。病院で赤ちゃんが生まれ、みんなでトラックに乗って家族・親戚総出で病院にお迎えに行きます。彼らは病院の入口の階段手前まで来て、早く赤ちゃんに会いたいと言わんばかりの顔をして待っていました。そして彼女が、白いタオルに包まれた赤ん坊を両手に抱きかかえ、病院の職員と一緒に外へ出てきました。まずその彼氏が赤ん坊の顔を見たのですが、驚いて言葉が出ません。続いて彼のお父さんが子供の顔を見ましたが、また反応がありません。私は子供

の様子が変なのには気づいたのですが、想像もしていない結末になってしまいました。お父さんが子供を抱きかかえ、みんなに見せたところ、迎えに来ていた皆も反応がなく言葉もなかったのです。

この赤ちゃんは、なんと、かわいい黒人でした。どうやら彼の子供ではなかったようです。しかしお父さんは、私らの子供だと大声を上げて喜びました。その後も、家族仲良く暮らすのですが、その意外性や間の作り方に驚きました。

ロシア映画は個人的に大好きです。今年はどんな映画に出会えるかが大変楽しみです。もしお勧めのロシア映画がありましたら是非教えてください。今年もよろしくおねがいいたします。

東京　竹村　貢(たけむら　みつぐ)

想いの迫力

「サントリー10000 人の第九」というのを皆さんご存じでしょうか。関西の方にはおなじみかもしれませんが、もともとは大阪築城 400 年祭りに行われた一回限りの大イベントだった素人参加型クラシックコンサートが、その大成功に味をしめ(？)、今日まで 20 年以上続く毎年恒例の年末イベントです。数年前から妻の家族が参加していることもあって、昨年末、初めてその生本番を観覧してきました。

その内容は文字通り想像がつくかとは思いますが、ベートーベンの「第九」を歌うんです。一万人の素人が。しかも、下はこども店長くらいの小学生から上は 90 歳！を超えた人までが。しかも全てドイツ語で、です。説明だけ聞くと、なんとも無茶なイベントと思ってしまいます(よね？)。クラシックとは無縁の人生を歩む私ですら、「大丈夫？」と思ってしまう内容です。しかし、結論から言ってしまえば、その光景、目の前での一万人の生の声、その想いに飲み込まれて素直に感動してしまいました。

もちろん、その一万人はいきなり集まって少し練習して本番というわけではありません。彼らは半年前からレッスンを行います。毎週 1、2 回のレッスンをゼロからコツコツと半年間続けます。普段仕事をしながらも、レッスンを2回休むと本番参加資格がはく奪されるような厳しい条件の中で素人が頑張るわけです。また長年続いているこのイベントには同時にいろいろな物語もあります。家族・友人で参加するという平凡なものだけでなく、この機会が唯一子供とコミュニケーションできる手段の一つであるとか、小学校から一緒に参加していた娘が来年結婚で大阪を離れる前の最後のイベントであるとか、ずっと一緒に参加していた亡き夫にあらためて毎年感謝するイベントであるとか、それぞれがこの第九の成功という同じ目標に、見ず知らずの仲間とともに努力するわけです。そんな努力やいろいろな想いの集大成を先日、生で体感してしまいました。なんだか、やはり私はまだまだ人間として成長しないといけないようです。

どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

大阪　永冨　文彦(ながとみ　ふみひこ)

初めて南の島へ行きました！

明けましておめでとうございます。今年も JIC をよろしくお願いします。

昨年は初めて南の島へ旅行に行きました。私の最初の海外旅行は 2002 年のハバロフスクで、それからも海外といえばロシアという感じで、ロシアやウクライナ方面が主でした。

そんな私が、昨年初めて常夏の南の島へ行きました！今回行ったのはマレーシアのペナン島です。なぜペナン島かというと、安い航空券を買うことができたからです。「プールで泳いで、マッサージして、屋台でたくさん食べまくろう！」というテーマの旅行だったので、観光は少なめでしたが、とてもゆっくり過ごすことができました。帰国後写真を見返すと、屋台での食事の写真がものすごく多くて、自分の食い意地に苦笑いです。色々なものを食べましたが、気付かずにすごいものも食べました。鶏の足です。肉の部分ではなく爪のあたりの部分です。プルプルとした食感で、とても美味しかったのですが、夫が「これ鶏の足だ！」と気づきました。確かに良く見ると形がソレでした。気づいてからは私は手を付けませんでした(笑)。美味しかったけどね。

ペナンには夫の親戚夫婦が住んでいて、本当に色々お世話になりました。親戚夫婦は、今回私たちに5つ星のホテルをプレゼントしてくれました。感謝感謝です。ホテルでは、一日中プールで過ごしました。泳いだり、トロピカルジュースを飲んだり、昼寝をしたり…時間がゆっくりと流れていて、まさに「バカンス」という感じでした。もう泳げなくなっていると思っていたのですが、意外と平泳ぎができて嬉しかったです(笑)。人生初のパラセーリングもできたし、マッサージスタッフの人と仲良くなるくらい何回もマッサージで癒されたし、

旅のテーマをすべて満喫できて大満足でした◎

こんな私ですが、皆様の旅のお手伝いができるのを楽しみにしております。2010 年も JIC を宜しくお願い致します！

東京　鶴田　ゆり（つるた　ゆり）

1010

新年おめでとうございます！長めのお休みをいただいていましたが、昨年 4 月に復帰しました。お客様とお話しつつ旅程をアレコレするのがとても楽しいです。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。ところで、久しぶりにやりますと、内勤は肩が凝りますね。身体全体の血が止まる感じ。今日は同じような悩みを持って日々をお過ごしの皆様に、おススメの娯楽をご紹介したいと思います。

廉価でリラックスでき、心によい。身体にもよい。更に美容にもよい。それは、「銭湯」です！大きなお風呂でゆっくりと身体を伸ばし、沢山の湯気にあたると…マイナスイオン効果でしょうか、翌日はお肌がツルツルです。番台から脱衣所、富士山の絵のある浴場へ抜ける懐かしい風情。サウナや薬湯、マッサージ風呂が設置されている所も多いです。そして、「家にも風呂があるのに、わざわざお金を払って外風呂」というあたりに、地味にリッチな気分も味わえます（私だけ？）。家族旅行の機会が少ない我が家の、月に 2, 3 度のささやかな楽しみです。ただしその度に夫婦間で微妙なかけひきが…。4 歳児（人の話を聞く耳あり）と 1 歳半児（理性未発現のヨチヨチ歩き）、どちらと入るかにより、リラックス度はかなり違うのです。

ところでこの文章の題名は…2010 年、の間違いではなく、「セントー」。私が考えたシャレじゃないですよ。東京都浴場組合の銭湯情報誌の名前です（いちまるいちまる、と読むそうです）。

東京　百瀬　智佳子（ももせ　ちかこ）

日ロの文化・観光交流の画期の年へ

～2010 年春、成田からロシア極東へ週6便、直行便就航

昨年 12 月 1 日に東京で開催されたロシアセミナーでウラジオストク航空（XF）日本支社は 2010 年夏期スケジュール（3 月末～10 月末）を発表し、定期チャーター便として成田からロシア極東の主要都市ウラジオストク、ハバロフスクへ直行便を各週 2 便、計 4 便を新規に就航させる計画を明らかにしました。国土交通省への申請はこれからとのことでしたが、これが実現すると日本からロシア極東へのアクセスは画期的に改善されることとなります。現在、すでに運航している成田−ユジノサハリンスク線と合わせるとなんと週 6 便、成田から極東へフライトが飛び立つこととなります（従来の新潟からの定期便も運航予定）。

1973 年に新潟−ハバロフスク線が開設されて以来（新潟−ウラジオストク線は 1993 年開設）、ロシア極東・シベリアへのフライトの起点であり玄関口は現在にいたるまで約 37 年間、新潟空港が果たしてきました。日ロ交流、ビジネスなどに携わってきた多くの関係者、旅行目的で訪露された方々にとってはとても思い出深く、また慣れ親しまれてきた空港でもあります。しかし一方で、新潟からウラジオストク、ハバロフスクへの飛行時間が 1 時間半～2 時間に対し東京から新潟への所要時間は新幹線で 2 時間強といかにも日本国内移動の比重が高く、これからの日ロの往来を支えるには明らかに足かせとなっていました。また、人口 1 億 4000 万人、日本の総面積の約 45 倍にも達する国土を有する隣国ロシアへの日本の首都圏からの直行便が 1970 年に開設されて以来、40 年間近くにもわたり成田−モスクワ線、一路線のみという事態も、同じく隣国である中国への成田、羽田空港からの路線が 15 路線以上にも及んでいることと比較すると、いかにも不自然な状態といえます。

今回発表された成田−ウラジオストク、ハバロフスク線の定期チャーター便の計画がぜひ実現され、イルクーツク、カムチャッカ、そしてモスクワ、サンクトペテルブルグなど多くのロシアの都市と日本を結ぶ新しい定期路線へと発展していくことを願わずにはいられません。

東京　杉浦　信也（すぎうら　しんや）

強いロシアが見たい！

あけましておめでとうございます。昨年は留学や旅行の手配、イベントその他で大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

いよいよバンクーバー五輪が迫ってきました。人によって注目競技は違うと思いますが、私の場合はフィギュアスケートです。私がスケートに興味を持ちはじめたのはもうずいぶん昔のこと。そのころ活躍していた選手と言えば、伊藤みどりさん、オクサナ・バイウル、ゴルデーワ＆グリンコフペア etc。日本の女子選手も強かったですが、スケート大国＝ロシア（旧ソ連）の時代でした。その後、とってもキュートなイリーナ・スルツカヤが 16 歳で彗星のごとく世界デビュー、ザ・王子様なイリヤ・クーリックが日本のファンを虜に…、そしてペアやアイスダンス競技ではロシアが常にチャンピオンという

時代が続きました。しかしトリノ五輪を最後にロシア選手の活躍があまり見られず、ロシアファンにとっては淋しい4年間でした。

今バンクーバー五輪を目の前にし、ちょっと面白そうな展開になってきました。トリノ五輪チャンピオンのプルシェンコが復帰！そして女子ではスルツカヤが登場したころを彷彿とさせる注目の若手アリョーナ・レオノワ選手が出てきました。彼女のキャラクターにピッタリのはつらつとした演技がとても魅力的です。五輪がとても楽しみになりました。ぜひ注目して見てみてください！

話は180度変わりますが、個人的には、昨年 JIC 山岳部の活動をはじめることができ、嬉しい 1 年となりました。難易度の低い山から徐々にですが、来年も全国のあらゆる山にザック担いで仲間と出掛けていきたいな、と思います。

大阪　小西　章子（こにし　あきこ）

今年は走ります！！！

明けましておめでとうございます。昨年は皆様にとっていい年になりましたか？経済危機が吹き荒れている中、色々とつらい思い、やりきれない気持ちになった事が多々あったと思います。我がインバウンド部もロシアやウクライナからのお客さんの激減を食らってしまい、かなり痛い思いをしました。

しかし、めげてばかりいては何も始まりません。持論ですが、人間はどんな状況に置かれても結局生きていかなければいけないので、ため息をつくよりも常にポジティブに物事を捉えて逆境を楽しむぐらいの気持ちをもっていった方が、ストレスも溜まらなくなるし、見えてくるもの（イコール“チャンス”）もある。逆境に打ち勝つには、ひとえに「精神力」を伸ばす意外はありません。すなわち「我慢強く」なることです。

一昨年の夏、他の社員と共に四国のお遍路を体験させてもらってから、部署内で密かな健康ブームがおきました。社長は次回のお遍路に備えてウォーキングを始め、その結果、昨年 11 月末には見事 10 日間（距離にしては 270 キロ以上！）歩き切りました。部長の林はサッカー三昧に加え、週末ランニングを楽しむようになり、余分な脂肪は 1 グラムもありません。自分はといえば、会社に入ってから太っていく一方で、7 年足らずにして体重が 15 キロも増え、ついに「メタボ寸前」と言われるまでに。さすがに「これはまずい」と思い、スポーツクラブに通い詰めを開始しました。そしてメタボな自分の「救世主」となったランニング・マシーンに出会いました（笑）。20分、30分、40分、1時間と少しずつ一度に走っていく時間を延ばしていくといつの間にか体が引き締まってきて、なんと半年で 7 キロ減！そうなると後はもう楽しくて仕方ない！そのうち外でも走り始め、去年の暮れには初のハーフマラソン大会にエントリーし、完走しました。

でも、ランニングの一番すごいところは決してダイエット効果ではありません。ある程度長い距離を走ろうと思うと、どんなにたくさん練習を重ねていても、途中からかならず苦しくなります。体が言うことを聞かなくなるし、足が鉛のように重くなるのです。この時点からゴールするまで「もうやめようぜ～」と甘～い声でささやく自分とひたすら戦う時間、我慢する時間です。この「我慢の時間」が、必ず「精神力」に変わっていくと信じています。そして苦しい思いをして培った精神力は、逆境に立たされた時、必ず役立つと思っています。

とまぁ、色々と書いてみましたが、今年の目標は精神力よりも「脂肪燃焼」力です（笑）。あの頃（っていつだよ！）の体を取り戻すぞ～！

東京　モロゾフ・デニス

坂の上の雲

あけましておめでとうございます。ロシアとサッカー、今年もなんとかこじつけます。

NHK で『坂の上の雲』というドラマが始まりました。正岡子規や日露戦争で活躍した軍人、またその戦争そのものに関する内容が描かれています。日本が明治以降はじめて西欧に触れ、あこがれから手を伸ばせば届きそうな近代国家の理想を題名と重ね合わせているそうです。まだ序盤ですので主人公達の若かりし頃の描写が中心ですが、後半に日露戦争の内容が出てくるようです。

日本サッカーも当時の日本と重ね合わせられるような気がします。93 年にプロリーグができ、カズがイタリアへ行き、98 年に初めてW杯出場、ヒデがイタリアで活躍し、ワールドユースで準優勝、俊輔が CL で脚光を浴び、本田がオランダ開幕 5 戦連発(大昔の釜本メキシコ五輪大爆発とか、奥寺もドイツにいた、とかは江戸時代のことにしましょう)・・・日本サッカーは着実に進歩しています。15～20 年前には考えられないことがおきています。まさに日本サッカーがヨーロッパサッカーを本格的に知り、戦い、一泡吹かせんとしているわけです。世界を驚かせるんです、ねぇ、岡ちゃん。

そんなわけで今年、南アフリカでW杯やります。今から落ち着きません。日本は早々に出場を決め、親善試合を繰り返し強化に勤しんでいます。本気で4強を目指しています、ねぇ、岡ちゃん。12月5日に本戦の組み合わせが発表され、日本はオランダ、デンマーク、カメルーンと総当たり予選リー

グを戦うことになりました。この中で2位以上になって決勝トーナメントに進み、ベスト4になるにはそこから2回勝たないといけません、ねぇ、岡ちゃん。いろんなところいろんな人が絵空事やフヌケなことを言って騒いでいます。どんな予想も自由。勝ってほしい、頑張ってほしいと思うのはみんな一緒。あー、初戦勝てますように･･･お願いします。森本出して下さい。本当にお願いします。ちなみにロシアはあと一歩というところで本選出場を逃しました。出場権をかけた決戦の前日にクラブで踊り倒していた選手がいたとかいないとか、youtube ではボロクソ書かれてるし、JIC のブログに書く気も起きません。2008 年の EURO の勢いはどこへいったんでしょう？この点においてロシアとサッカーをこじつけるのは諦めました。

はたして、南アフリカで日本代表は雲をつかめるのか、やはり雲は雲でしかないのか･･･そして、この文章はロシアとサッカーをつなげられたのか･･･日本サッカーにとっても皆様にとっても良い一年になりますように。

東京　林　寛之（はやし　ひろゆき）

断固たる決意

新年あけましておめでとうございます。

昨年も健康に恵まれ旅人生活を満喫することができました。ウズベキスタンではサッカーワールドカップ本大会出場決定の瞬間にも立ち会うという一生忘れない経験ができ、2 回目のインドでタージ･マハルにようやくお目にかかり、ウィーンでワイン、プラハでビールを堪能し、と、思い出の地がまた一つまた一つと増えました。そんな私は国内も時間をみつけて回っています。もともと北海道出身でそこでの生活が長かったのですが、県境を超える国内旅行を陸路で手軽にできる環境をいつも新鮮に感じています。

秋の出来事。3 泊 4 日で広島から山口方面へレンタカーを借りて気ままな一人旅をして、その時、萩の吉田松陰の生誕地とお墓を訪ねました。私は今年 29 歳を迎えますが、彼が刑に処され、短い生涯を閉じたのは奇しくも 29 歳のとき。彼の生き様と、自分の人生とを比べると、私の小粒な中身はさることながら、そもそも一生懸命さが足りないのではないかと痛感しました。混沌とした変革の時代に生きた彼と、世の中が抱える未来に対する不安感や閉塞感の中に生きる自分。今も昔もマイナス因子はどこかにあって、何かが重なるような気がしますが、そんなのぶっ飛ばす！くらいの気合が今こそ必要だな、と色々考える旅でした。後から振り返ったときに、充実した人生だったと誇れるよう必死に頑張らないと決意を固くし、その努力が皆様のお役にも立てば、何よりの幸いに思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

東京　相澤　進之助（あいざわ　しんのすけ）

どんどん！どんどん！

ロシアはどんどん変わっています。経済アナリストや政治評論家なんかじゃない凡人の私にもロシアの急激な変化が目に見えて分かります。大学生時代に旅行で来た時は、物不足でライターやボールペンをプレゼントすると喜ばれると言われていて、しかもトイレットペーパーがないからといってスーツケースいっぱいに詰め込んで日本を発ったものですが、今ではそんなものはどこにでもあふれています。そういえば、飛行機でオウム真理教の人たちを見ました。ロシアでも活動をしていたのですよね。私が初めてロシアを見たのは、ちょうどあの頃です。

その後、 10 ヵ月の留学のつもりで私がサンクトペテルブルグに来たのは 1998 年 8 月末でした。あのころはスーパーはまれで、市場や通りなど屋外に店がありました。厳寒の真冬でもおばさんたちが、卵や牛乳を毛皮の上に白衣を着て売っていました。外で売っている牛乳を買って来てすぐ飲むと、少し凍っていてシャリシャリしていましたね（笑）。店の中で買い物をするにも、肉売り場で計ってもらって値段を紙切れに書いてもらって、野菜売り場に行って計ってもらって値段をまた紙切れに書いてもらって･･･で、カッサ（レジ）の行列に並んで、集めた紙切れを出してお金を払ってレシートをもらい、それを持ってまた肉売り場に行って肉を受け取って、野菜売り場に行って野菜を受け取って･･･。しかも、どこの売り場に行っても手に取って品物を見るまでに、あの青いのの隣のやつ、あの上から2段目の四角いやつ、 と、とにかく口に出して何か言わなければダメでした。それが、今となっては、郊外型のスーパーで何でも一度にそろいます。ショッピングカートいっぱいに欲しいものを入れて、レジに行って、お金を払うだけ。日本と同じように言葉を発さなくても買い物が出来ます。本当に便利になりました。

と、買い物ひとつとっても、ロシアはどんどん！どんどん！変化しています。みなさんもぜひ変化を体験しに来て下さい。2010 年、ロシアも日本もどんどん！発展の年になりますように。

サンクトペテルブルグ　荒川　好子（あらかわ　よしこ）

在日ロシア連邦大使館・領事館より新年のご挨拶

親愛なる皆様

2010 年が皆様にとって良い年になりますように！

昨年は日本の政治に大きな変化が生じました。民主党鳩山政権の誕生は、ロシアと日本の関係に大きな変化と飛躍をもたらす期待を高めています。両国の関係が今後どのように発展していくのかはまだ予測できませんが、日本政治の変化というこの機会を大きなチャンスとして利用すべきことは疑いありません。

私たちロシア連邦文化協力庁の戦略目標は、日本とロシアの両国民の相互信頼関係を作り上げることです。そのためには何よりもまず文化交流、社会的経済的交流を促進して、相互理解の発展をはかることが必要です。その効果的な実現のため、私は東京にロシア科学文化センターを設立すべく、政府間協定書の締結に取り組んでおります。

両国民の関係において、ありきたりのステレオタイプのアプローチをやめ、新しい創造的な方法と様々な可能性を探求することは、もうひとつの重要で複雑な課題です。公式的な挨拶や形式的な付き合いは最低限にして、何よりもまず人間関係を優先し、あらゆる分野で多様な協力関係を発展させなければなりません。言い古された言葉を繰り返す時間があれば、新しいアプローチと方法を探しましょう。

JIC の皆さんの若々しい発想が、露日関係に新しい息吹を吹き込んでくれることを期待します。お互いが協力すれば結果が出せることは確実です。

在日ロシア連邦大使館・一等書記官(文化担当)
ロシア連邦文化協力庁・在日代表
アンドレイ・フェシュン

ロシアと関西の交流拡大を

在大阪ロシア連邦総領事館を代表して、“JIC インフォメーション”読者の皆様に、心からご挨拶を申し上げます。

私は、大阪、京都、兵庫など西日本 12 府県を管轄する在大阪ロシア連邦総領事としてこの 4 年間勤務してきました。私の経験によれば、ロシアと関西の交流においては大きな可能性と将来性がたくさんあると思われます。具体的に言えば、姉妹都市交流と市民レベルの文化交流、観光分野の交流、そしてビジネス交流をその代表例として挙げることができます。

関西において、2009 年はサンクトペテルブルグ市と大阪市の姉妹都市提携 30 周年、そして極東・ハバロフスク地方と兵庫県の友好協力提携 40 周年を迎える記念すべき年でありました。特に大阪とペテルブルグの 30 周年記念プログラムは充実しており、ジャズコンサート、ロシア料理と日本料理の講習会、芸術展覧会、子供絵画展、公式使節団派遣、ビジネスセミナーなど、数々の催しが実施されました。ロシア人は、昔から日本の文化に深い関心を持ち、高く評価してきました。近年、ロシアから来日する観光客が増加し、東京だけでなく、「日本の心」ともいうべき関西の大阪、京都、奈良などの歴史都市を訪問するロシア人が増えて来ました。

在大阪ロシア連邦総領事館としては、関西の人々のロシアに対する関心がかなり高く、文化交流、市民の草の根交流の大きな潜在力があると期待をしております。日本のロシアに対する関心の高まりと共に、ロシアを訪れる日本の観光客が増えていることも嬉しい限りです。ロシアの観光資源についてのセミナーや説明会などの需要も高まっているようです。JIC を架け橋にロシアと関西の交流が一層拡大することを期待しております。

在大阪ロシア連邦総領事　イワン・プロホロフ

スタニスラフスキー・ネミロヴィチ＝ダンチェンコ記念

国立モスクワ音楽劇場バレエ　日本公演

詳細はこちら！
http://mamt2010.jp

◆日程◆
『オープニング・ガラ』4 月 13 日(火)　19:00～
『エスメラルダ』4 月 14 日(水)　19:00～
4 月 15 日(木)　14:00～/19:00～
『白鳥の湖』4 月 17 日(土)12:00～/17:30～
4 月 18 日(日)12:00～
◆場所◆　Bunkamura オーチャードホール

◆チケット料金◆　JIC 会員特別割引です！
S 席　12,600 円　⇒　**11,000 円**
A 席　10,600 円　⇒　**9,500 円**　※ただし座席指定不可です。
ご希望の方は、2 月 10 日(水)までに、電話または E メールにて、希望公演日・公演時間・枚数をご連絡のうえお申し込みください。
TEL：03-3355-7295（ダンチェンコ・バレエ係）
E メール：jictokyo@jic-web.co.jp（題名を「バレエチケット」としてください）

JIC春の短期ロシア語研修旅行

ロシア人と仲良くなろう！ サンクトペテルブルグロシア語研修 &ホームステイ

モスクワ滞在付き！

期間：2010年2月27日(土)～3月16日(火) 全18日間

料金：成田発　¥278,000-

～大阪・名古屋発着も片道＋6,000 円で手配可能です～
（サンクトペテルブルグでのホームステイ 1 名 1 室、モスクワのホテル 2 名 1 室利用の場合の 1 名様費用）
＊日本航空利用
＊燃油サーチャージ目安　15,900 円
（2009 年 11 月 17 日現在）
＊上記のほかに、空港税一成田 2,040 円、モスクワ 2,120 円、および成田空港保安料 500 円が別途必要となります。またビザ費用として 10,250 円（実費・代行料込）が別途必要となります。

締切：2010年1月29日(金)

◎詳しい旅行条件等を記載した書面をお渡しいたしますので、事前にご確認のうえ、お申込み下さい。

旅行企画実施：ジェーアイシー旅行センター㈱
研修協力：JIC 国際親善交流センター

2010 年ＪＩＣ春の短期ロシア語グループ研修は、デルジャーヴィン・インスティテュートで学ぶ 2 週間のロシア語レッスン。レッスン後には、ロシア文化に触れる課外授業を用意し、さらに週末には、市内・郊外を観光するなど、サンクトペテルブルグの魅力がたくさん詰まっています。滞在はロシア人家庭でのホームステイです。

到着週の週末には、日本語を勉強しているロシア人と一緒に時間を過ごす交流プログラムをご用意しました！レッスンで学んだロシア語をさっそく使って、ロシア人の友達を作りましょう！

研修後はモスクワにも 2 泊。ロシア 2 大都市をお楽しみいただけます！

参加者の体験談

勤続 10 年の自分へのご褒美で短期研修に参加しました。ロシアは 2 回目ですが、何せ 15 年ぶり。出発前は不安と緊張で一杯でしたが、楽しいことばかりであっという間の 16 日間でした。

学校は 9:30～13:00 まで。授業では文法を勉強したり、映画を見たり、ロシアについての色々な話を聞きました。授業後は観光・買い物・映画館・・・と、とても充実した毎日でした。

当たり前ですが、学校でも家でももちろんロシア語。しかし先生もホストファミリーもゆっくり分かりやすく話してくれたので、何とかコミュニケーションを取ることが出来ました。一番嬉しかったのは地下鉄を乗り間違えた時や道に迷った時、お店で金額が聞き取れず慌てた時に、皆親切に助けてくれたこと。ロシア人の優しさを改めて実感しました。普通の旅行ではなかなかできない貴重な体験をさせて頂きました。

（2009 年夏参加　石川綾子さん）

ＪＩＣ：1～2月の予定

1月16日（土）留学相談会（東京）
13:00～16:00　※要予約
1月16日（土）JIC 大阪　ロシアフェアー　※要申し込み
1月20日（水）JIC 長期留学2010年4月生募集締切
1月29日（金）春のロシア語短期グループ研修募集締切
最新情報、追加情報はホームページでご紹介しています♪

JICは頑張る人を応援します！

旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方は JIC までご相談ください。イベント時期の約 2 ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11月の6回となります。

掲載内容が JIC の活動に合わない場合はお断りする場合もありますのでご了承ください。

留学・研修各種パンフレットは JIC へご請求ください。留学・旅行相談お気軽に！

～Jクラブ（JIC友の会）のご案内～

ＪＩＣインフォメーションを年６回、またＪＩＣのイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。
国際親善交流センター